

MITSUBISHI

三菱 ルームエアコン別売ドレンアップメカ

形名 MAC-860DM

据付工事説明書

販売店・工事店さま用

この製品の性能・機能を十分に発揮させ、また安全を確保するために、正しい据付工事が必要です。据付工事の前に、この説明書を必ずお読みください。

- このドレンアップメカはMTZ-22RAS/25RAS/28RAS/36RAS/40RAS機種専用です。
- ドレン配管の下りこう配が十分確保できない場合にお使いください。
- 据付ける前に本説明書と室内ユニットの据付工事説明書をよくお読みください。
- 室内ユニット制御基板のドレンスイッチを必ず“有”に切り換えてください。
(詳細は④項をご覧ください)

安全のために必ず守ること

- ご使用前に、この「安全のために必ず守ること」をよくお読みのうえ据付けてください。
- ここに示した注意事項は、安全に関する重大な内容を記載していますので、必ず守ってください。
- 据付工事終了後、本説明書をお客さまにお渡しください。お客さまに、室内機の「取扱説明書」とともに大切に保管していただくように依頼してください。

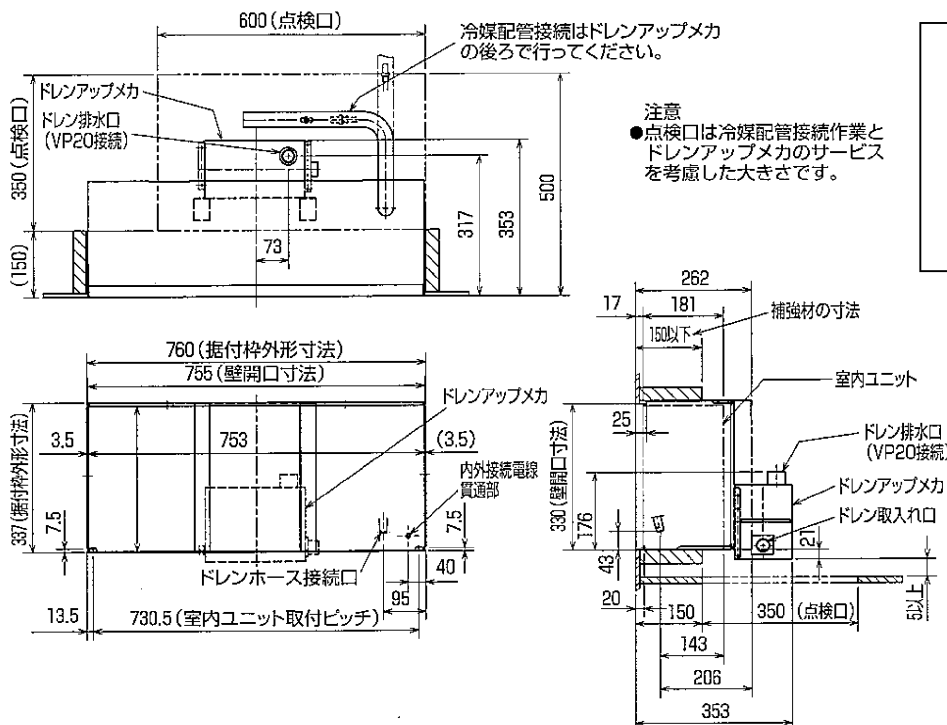
警告 (誤った取扱いをしたときに、死亡や重傷等の重大な結果に結び付く可能性が大きいもの。)

- 据付けは、販売店または専門業者に依頼する。
不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。
- 据付けは、据付工事説明書にしたがって確実に行う。
据付けに不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。

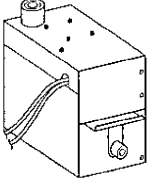
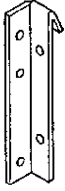
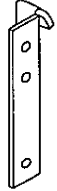
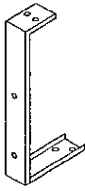




- 据付けは、重量に十分耐える所に確実にを行う。
強度の不十分な所に据付けると、ユニットが落下し、ケガの原因になります。
- 据付工事部品は、必ず当社付属部品および指定の部品を使用する。
部品に不備があると、火災・感電・ユニットの落下によるケガ・水漏れの原因になります。

設置構成図および設置スペース必要寸法

(単位:mm)

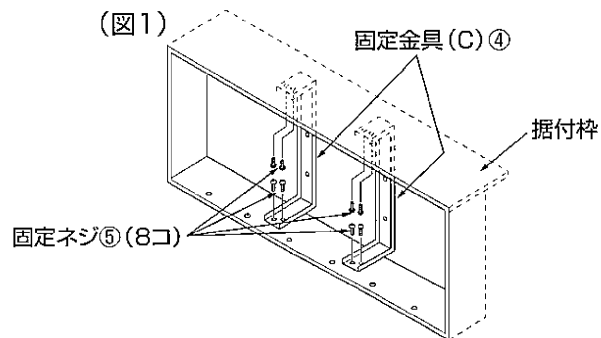


使用部品

①ドレンアップメカ 	②固定金具 (A) 	③固定金具 (B) 	④固定金具 (C) 
1	1	1	2
⑤ ②～④の固定ネジ 	⑥ドレンホース 	⑦パイプカバー 	⑧バンド 
4×10 18	1	1	1

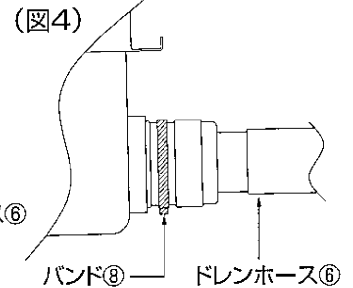
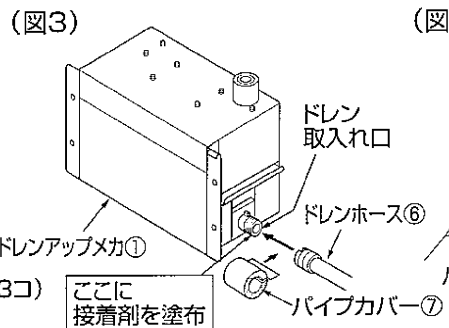
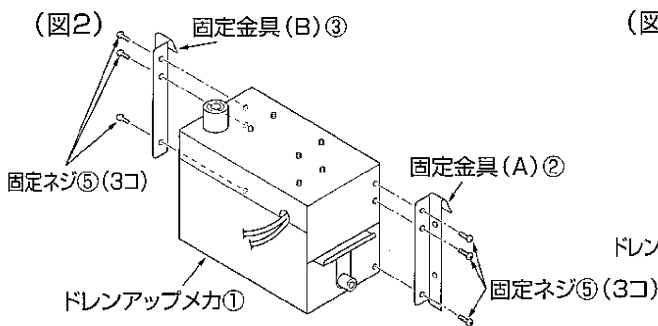
固定金具 (C) の取付け

- 図1のように固定金具 (C) ④を据付枠 (MAC-603TW) に取付けてください。



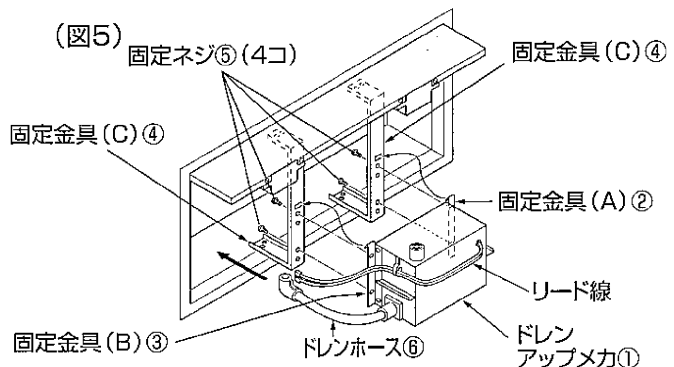
取付け前の準備

- 固定金具 (A)・(B) ②③を引掛け部が上側になるようにドレンアップメカ①に取付けます。(図2参照)
- ドレン取入れ口の接続部に塩ビ系接着剤を十分塗布し、ドレンホース⑥をドレンアップメカ①のドレン取入れ口に突き当たるまで確実にはめ込んで接着してください。(図3参照)
- 接着後、付属バンド⑧で固定してください。(あまった部分はカットしてください。)(図4参照)
- 接続部にパイプカバー⑦を取付けてください。(断熱処理を確実に行ってください。)(図3参照)



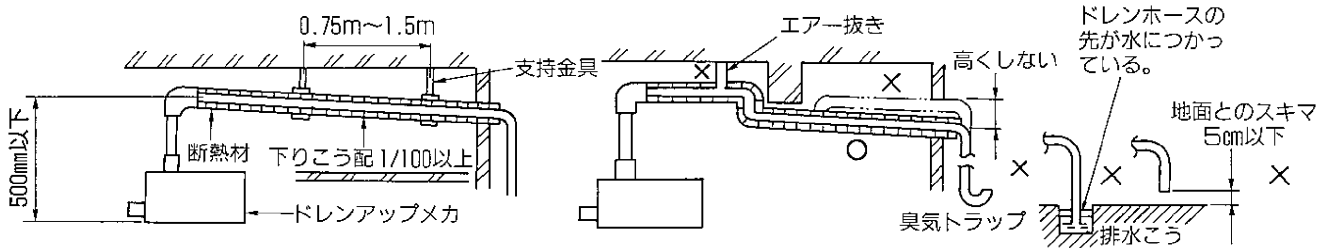
ドレンアップメカの取付け

- ドレンアップメカ①を固定金具 (C) ④に引掛けた後、固定ネジ⑤で固定してください。
- ドレンホースの室内ユニット接続側を据付枠の中に出します。
- リード線2本を図5のようにあわせ据付枠の中に出しておきます。

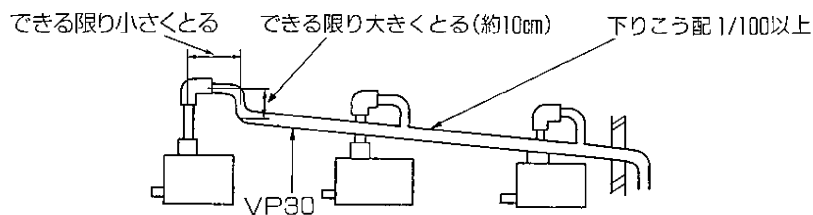


ドレン配管の接続

- ドレン配管の接続は硬質塩ビパイプ一般管VP20 (外径φ26)〈現地調達〉を使用し配管部は必ず塩ビ系接着剤にて漏れないように行ってください。
- ドレンパイプには必ず市販の断熱材 (発泡ポリエチレン比重0.03、肉厚10mm以上) を巻いてください。
- ドレン配管は室外側 (排水側) が下りこう配 (1/100以上) となるようにし、途中にトラップや山越えを作らないようにしてください。
- ドレン配管の横引きは20m以下にしてください。また、ドレン配管が長い場合には途中に支持金具を設けてドレン配管の波打ちをなくしてください。
- エア抜き管は絶対につけないでください。(ドレンが吹出場合があります。)
- ドレン配管の排水口部の臭気トラップは必要ありません。



- 集合配管の場合下図のように、本体のドレン出口部より約10cm位低い位置に集合配管がくるようにし、かつ集合配管はVP30程度のもので下りこう配1/100以上になるように施工してください。



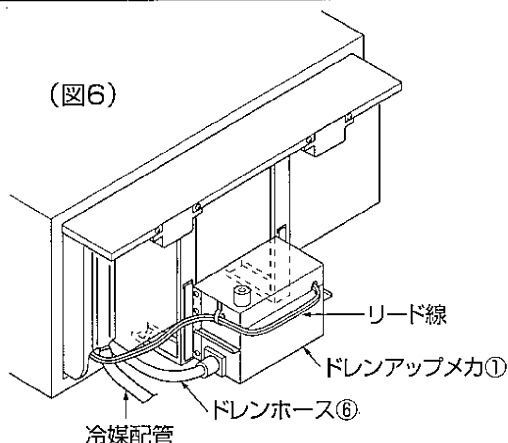
- ドレン配管の出口高さは、ドレンアップメカ底面より500mmまで高くさせることができますので天井内に障害物がある場合にはエルボ等を用いて施工してください。この場合、立ち上がるまでの距離が長いと運転停止時におけるドレン逆流量が多くなり、オーバーフローの恐れがありますので上図寸法内で処理してください。
- ドレン配管の出口は臭気の発生する恐れのない場所に施工してください。

室内ユニットの設置

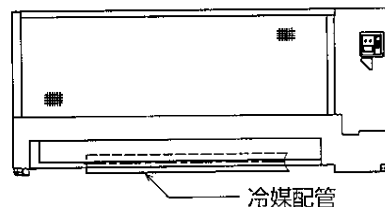
室内ユニット設置の詳細については、室内ユニットの据付工事説明書をご覧ください。

- 室内ユニットの冷媒配管を90°回転させてください。(図7参照)
- ドレンホース⑥とリード線に注意し、室内ユニットを据付枠に固定します。
- ドレンホース⑥を室内ユニットの接続口に接続します。

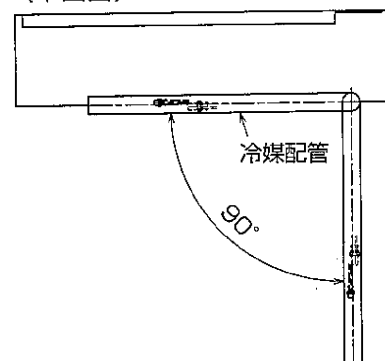
室内ユニットに付属しているドレンホースは使用しないでください。



(図7)
(正面図)



(下面図)



ドレンアップメカの配線接続

電源ブレーカが切れていることをご確認ください。

- ドレンアップメカ①から出ているドレンポンプとドレンセンサーのリード線をドレンアップメカ①の側面にあるクランプに固定し室内ユニットのドレンホース⑥接続部下側を通し、室内側に出します。(図8参照)

- 室内ユニットの電気品カバー(1)と(2)を外します。(図9参照)

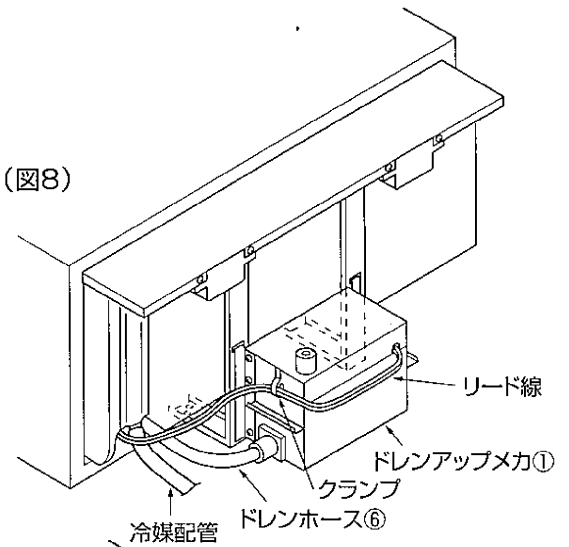
- ドレンポンプ(3ピンのコネクタ)を制御基板上のコネクタCN1N1(白色)へ接続します。(図10参照)

- ドレンセンサー(5ピンのコネクタ)を制御基板上のコネクタCN1M1(赤色)へ接続します。(図10参照)

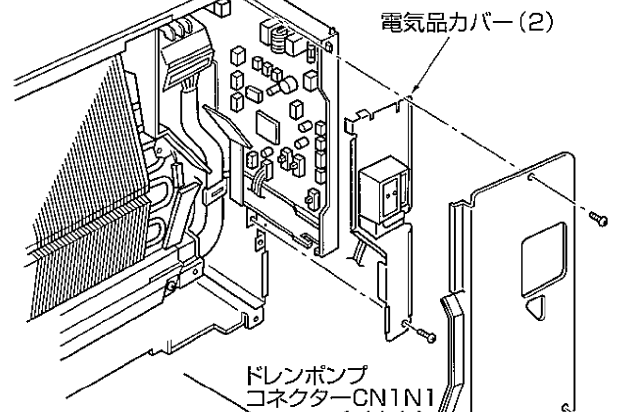
- 制御基板上的ドレンスイッチ(SW91)をドレン有に切り替えます。ドレンスイッチ(SW91)をドレン有にしないと、ドレンアップメカは作動せず、水漏れが発生します。(下図参照)

- 接続作業が終わりましたら、制御基板を元の位置にもどし電気品カバー(1)・(2)を取付けてください。

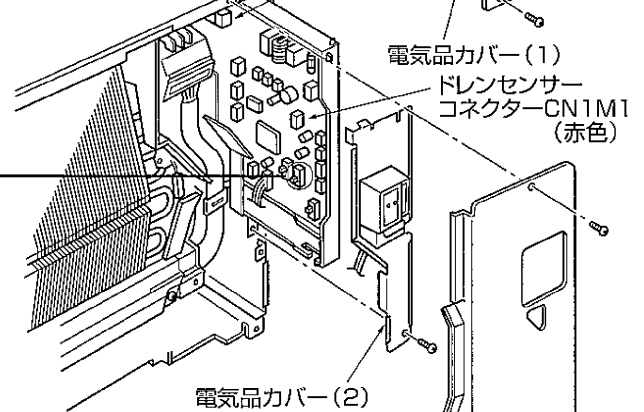
(図8)



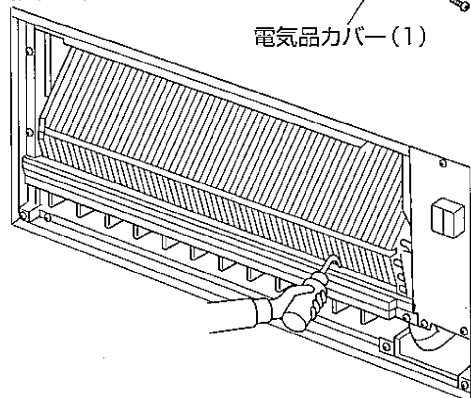
(図9)



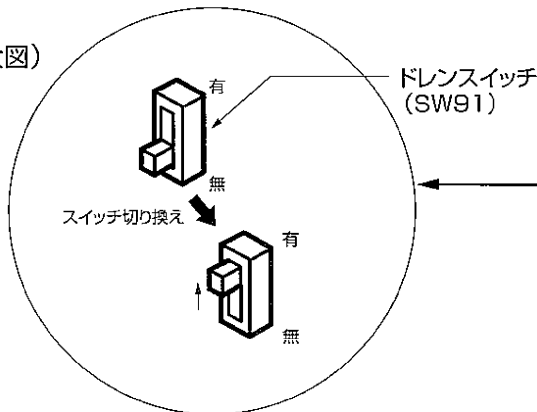
(図10)



(図11)



(拡大図)



試運転

ドレンアップメカの取付けおよびドレン配管施工完了後、排水が確実に行われていることと、接続部からの水漏れがないことを確認してください。

- 室内ユニットの据付工事説明書の(試運転)の項と合わせて行ってください。
- 試運転をはじめる前に、配線とドレンスイッチの切り換えが確実に行われているかもう一度確認してください。
- 300cc~400ccぐらいの水を図のように熱交換器最下部のドレンパンに水さし等で徐々にいれてください。(図11参照)
- ドレンアップメカが作動し、正常に排水するか確認してください。